

## 第三学期始業式式辞

令和7年1月8日

### ※ 穏やかにスタートした2025年・・・平和に過ごしたい

「あけましておめでとうございます。」と今年は気持ちよく言うことができるのかなと思っています。生徒の皆さんからも事故の報告がないことは第一番目の理由ですが、一年前、令和6年一月一日に能登半島地震が起こり、石川県、富山県、新潟県で500名を超える方が亡くなりました。更に二日には救援物資を運ぼうと準備していた海上保安庁の航空機と旅客機の衝突事故が発生しました。あけましておめでとうと言える心情ではなかったことを覚えています。

九月には能登半島で豪雨災害が起こり、いまだに避難所生活を余儀なくされている方も大勢います。この正月には地震から一年ということで各地で黙禱する場面が見られました。仮設住宅暮らしの方もおられますが、その方たちへのインタビューの中で、今年の穏やかな天気の中で迎えられた新年に際して「何事もなく、平和に過ごせたら、いいかな」と答えられていました。平和な一年が続くことを祈ります。

### ※ 2025年の再開・・・お互いに今を支えている

この年末、正月は例年になく、たくさんの方の再開がありました。二つ紹介をします。

一つは、一学期末終業式の式辞で話をした、高校一年で亡くなった甥っ子萩田大貴さんのお父さんに久しぶりに出会えました。大ちゃんの通っていた静岡東高校野球部の静岡放送の取材をYouTubeで見っていたので、ついこの間会った感じがしていましたが、よくよく考えてみると大ちゃんが亡くなった時に静岡を訪れたとき以来でした。大ちゃんには本当なら二十歳を迎えるはずの年です。十八歳成人でも、二十歳で記念式を行うところが多く静岡市でも二十歳の記念式典を1月3日に行ったらしいのですが、その会場に赴いてから愛媛のほうに来られたそうです。普通に生きていけば子供の成人式の会場に親が行くことはありません。親としてずっと心の中で息子さんが生きておられるということなのだと思います。

もう一つは、はじめてホームルーム担任をしたクラスの生徒と再会したことです。私は、初任の高校3年目の25歳になる年に初めてのホームルーム担任をしました。その学年が50歳を迎え盛大に同窓会を行うということで連絡がありました。はじめての担任ということで勝手な思い入れがありましたが、大規模校で、関わり合いのなかった生徒も多く一年間だけの付き合いでしかも一年生の担任なので、出席することに躊躇もありました。しかし、出席してみると卒業以来35年以上ぶりに再会する生徒や当時いっしょに担任をしていたベテランの40歳前後の先生など、二度と会うはずがないと思っていた方にも出会えて感激でした。今校長という立場で仕事していますが、大学上がりの若造を教師として信頼していただきともに学んだことが、お互いに今を築いていると実感しました。あなたたちも今関わっていただいている先生方から力をもらっていると思いますが、あなた方も先生方に力を与えているということを知っておいてほしいです。

### ※ 西条の春の七草・・・新しい夢を創る食材

さて、最後の学期、三学期が始まります。この冬休みに七草のパック詰めにかかわった方もたくさんいますね、西条ならではのことで、「西条の七草」は、名水「うちぬき」と瀬戸内の温暖な気候に生まれ、高い品質とみずみずしいおいしさを誇っており、全国へ約100万パックが出荷されています。昨日1月7日は七草の節句で七草がゆを食する風習がありました。「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのぎ、すずな、すずしろ」それぞれに意味と効能があり、新しい年を迎えるにあたって、自然の芽吹きをいただき活力を得ようとする意味があります。例えばせりは「競り勝つ」、はこべらは「繁栄がはびこる」など意味があります。また、胃腸を整え、風邪を予防するというこの季節に適した食材です。七草は「新しい夢を創る食材」と言われています。

2025年、新しい夢に向かって、三学期のスタートです。すばらしい令和7年度につながる三学期にしてください。